

## 2019年度 輝くまちづくり交付金 実施報告書

## 1 事業内容

団体名	道東SDGs推進協議会
事業名	SDGs甲子園 道東地区大会
課題テーマ	地域を担う人材育成
事業提案の背景	<p>2015年に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標であるSDGsは、開発途上国のみならず我が国日本においても積極的に普及、実施されている目標です。</p> <p>2020年には新教育指導要領にもSDGsについて触れられるなかで、北海道道東地域の少子高齢化、若手人材の流出は進み、次世代の地域づくりを担ってゆく若者にいかに地域のことを考えてもらい、地域の持続可能性について問題意識を持ってもらうか、またその解決についてどのように将来的に関わってもらうか、といったことは、可及的速やかに取り組むべき事態でもあります。</p> <p>様々な観光施策が進む中、釧路市に対しての期待は内外ともに高まっており、日本国内のみならず海外からも注目を集める都市であることは、釧路市に住む高校生、および周辺地域に住む高校生にとっても「将来の私達のまち」に対しての大きな希望であることは間違いありません。</p> <p>今後さらにまちづくりという側面からも変動が生まれてゆく釧路市において、SDGsをテーマに高校生が主体となって地域や環境、経済や社会の持続性を考え、発表し、評価を受ける場をつくることは、次世代の担い手である高校生自身にとってだけでなく、その参加者や開催自治体にとっても新たな側面からの「まちづくり」に寄与する機会となると考え、本事業の提案をいたします。</p> <p>*提案主体である道東SDGs推進協議会は、環境省「平成30年度持続可能な開発目標（SDGs）を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」の採択団体です。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施策が充実し、域外より注目を集める釧路市の高校生が、国連の定めるSDGsというテーマのもとに学習し、高校生ならではの視点から釧路市の持続可能性について学習および発表の場をつくる</li> <li>・釧路市内高校生にとどまらず、道東地域に住む高校生が居住自治区域の枠を越えてSDGsという共通のテーマのもとで各自の学びや思いを発表、共有し、次世代の地域づくりを「持続性」というテーマのもとに評価を受ける場をつくる</li> <li>・次世代を担う高校生のSDGsに関連する発表を、釧路市民および釧路市外の住民が参加者としての立場でありながらも評価を行い、参加者自身もSDGsを学び、次世代の意見に耳を傾け、地域のあり方について考える場をつくる</li> </ul>
事業概要	<p>2020年1月11日に、高校生を含む道東地域の高校生が、釧路市生涯学習センターにおいてSDGsと地域の持続可能性について学び、個人ワーク、グループディスカッション、チームワーク、会場内での相互発表の後、同日開催された道央地区でのイベントに参加する高校生とオンライン会議ツールを用いた相互発表を実施。各チームはそれぞれ、自分たちの考える地域持続可能性を高めるSDGsアクションを考え、チームごとに発表した。</p>

	<p>本事業に先立ち、釧路・根室管内の全高校に本事業に関する案内を送付し、実際に各高校に足を運び、担当教諭に説明をした（2019年5月～9月）。</p> <p>本イベントは北海道大会と連携したものであり、北海道大会への応募は各チーム2～5名の人数で構成し、発表内容を事前にプレゼンテーションファイルとして送付。2/14までの応募期間中、全70チーム、道東地域から13チームの応募があり、道東地域内からは2チームが北海道大会への出場権利を獲得した。</p> <p>*当初予定していたイベント形態から変更あり。当初は道東大会において学校側からチームを選抜してもらい、大会内で発表と表彰を実施予定であったが、変更後はイベント内で学習の機会を設けた後、グループにわかれてコミュニケーションを取り、会場内と同日開催の道央会場とオンラインでつなげた相互学習の機会となった。</p> <p>*なお、北海道大会は3/17開催予定であったが、コロナウイルスの流行により延期が確定し、開催日程は未定となっている。</p>
事業展開	<p>北海道大会への出場権利を得たチームについては、次年度内に開催予定の北海道大会への旅費・交通費が支給される予定。</p> <p>北海道大会においては、全道から募集される高校生が、SDGsアクションをテーマとした発表内容の評価を受け、道東地区大会よりもさらに規模の大きなイベントで相互に学ぶ機会をもつ。</p>
成果目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日イベント参加者：21人（高校生4名、大学生2名、教育機関関係者2名、一般参加者13名（釧路市民3名含む））</li> <li>・北海道大会応募高校および応募チーム：18校、70チーム</li> <li>・道東地域内からの北海道大会応募高校および応募チーム：4高校（内釧路域内からは2校、釧路明輝高等学校および標茶高等学校）、13チーム（内釧路域内からは5チーム）</li> <li>・北海道大会進出権利獲得チーム：2チーム（釧路明輝高等学校、中標津農業高等学校）</li> </ul>
波及効果の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・釧路市内の全高校への本事業に関する説明を実施。</li> <li>・SDGsの認知、理解が普及することによる、地域の持続可能性を主軸においた事業アイデアの発生（添付資料を参照）</li> <li>・異なる学校の高校生同士がコミュニケーションを深め、自身の地域持続可能性への理解を深めた。また、道東地域と道央地域とのイベント内での成果発表が実施され、釧路地域の高校生チームが北海道エリア大会への進出権利を獲得。北海道エリア大会では教育機関、自治体関係者、民間事業者等が出場権を得た高校生のSDGsアクションについて評価をする予定。</li> </ul>
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施主体：道東SDGs推進協議会</li> <li>・イベント当日の運営事務局：道東SDGs推進協議会</li> <li>・北海道エリア大会評価委員会：</li> <li>・評価基準：SDGs甲子園運営委員会の定めるものとする</li> </ul>
連携した市担当課	無

連携した市担当課が 果たした役割 (※有の場合)	
--------------------------------	--

2 支出決算書と支出内訳  
(収入)

費目	決算額 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	55,848	
協議会会費支出	50,000	
合 計	105,848	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
使用料・賃借料	21,380	会場：1/11 11:30~18:30、13:00~17:00 (本番) ホール
使用料・賃借料	4,840	会場備品利用料
消耗品費	200	アルカリ電池
消耗品費	388	マスキングテープ
印刷製本費	29,040	ワークショップツール購入
小 計	55,848	
対象外経費		
報償費	30,000	講師委託
会場スタッフ	20,000	スタッフ4名分
小 計	50,000	
合 計	105,848	